



アクト

第 25 号

2013 年 10 月 15 日発行

九州国立博物館を愛する会

9月25日古都の光・象が歩いた道



象が長崎街道を通りました。1728年（享保13年）、江戸幕府八代将軍・徳川吉宗によって広南（現在のベトナム）から連れてこられた象。長崎から江戸まで74日間かけて歩いて行ったということです。筑紫野市の山家宿では2泊したそうで、夜ネズミが出てきて象は大変驚いたという話なども残っています。それらにちなんだ絵です。

（絵は筑紫台高校美術部の皆さんに描いていただきました。）

第8回「太宰府古都の光」を終え！（報告）

事業委員会 松岡良一

九博開館を記念して始まった「太宰府古都の光」が9月25日（水）開催されました。

（昨年に続き大宰府政庁跡、観世音寺、水城跡会場は観覧者、ボランティア協力者等を配慮して土曜日の9月21日に開催）

九博を愛する会は太宰府ブランド創造協議会主催の協力団体として、この祭りには今回で7回目の参加となりました。

九博会場は主催者が準備するメイン点灯式会場です。私たち九博を愛する会はメイン会場に相応しいオブジェ作りをめざし、また恒例となった影絵を上演しました。

今年のオブジェ作りのテーマは、10月から開催される「徳川家の至宝」と来年1月九博がベトナムで海外特別展を開催することに因んで、徳川将軍 吉宗が「象というものが見たい」と言いだしベトナムからやって来た象が長崎街道を歩き江戸まで上った旅の様子を約20枚の和紙に描き、写真のようなオブジェとして皆さんに楽しんでいただきました。尚、この絵は筑紫台高等学校美術部の皆さんにご協力いただきました。紙面をもつて改めて御礼申し上げます。



また、影絵は「飛んで行ったバナナン！どこへ行くの！（大冒険）」と「天神さまともろ尼御前」を短期間の練習にも関わらず、それぞれの演技者が人形になりきって演じ、声の出演者の好演もあり観覧者からお褒めの言葉も戴きました。

18時からの開式に先立ち、この日は15時ごろから心配された雨が降り出しました。会場設営

は30～40分遅れての準備となり、九博から借用予定の投光器等は雨中では使用できないため苦慮いたしましたが九博イベント担当の配慮で急遽大型のテントを利用させていただき事なきを得ました。



また、今回も太宰府東小学校児童・星ヶ丘保育園園児の絵灯明の飾り付け、後片付けは九博ボランティアの皆さんに担当していただき、またつくし青年会議所の会員の方にもお手伝いいただきました。このように、お祭りには多くの皆さんの手を煩わせ私たちが知らないところで、いろんな配慮を戴いていることと思います。

皆さん本当にありがとうございました！





太宰府市民政庁まつり

交流委員会 久保山 辰己

10月5日（土）政庁跡にて、台風の影響で小雨の降る中「太宰府市民政庁まつり」が開催されました。



愛する会は九州国立博物館の広報活動、会のPRを兼ねてブースを出展しました。今年の活動は、昨年に引き続き、事業委員会を中心に「かざぐるま」のワークショップを行いました。また、今年からステージの出演は無くなったの

ですが、ブースには九州国立博物館より「出張あじっば」に来てもらうことができました。

「出張あじっば」では、衣装体験や中国ごまの実演、馬頭琴という楽器の演奏などを行いました。雨の降る中ではありまし



たが、ブースに来られた方

は好きな各国の衣装を着て、写真をとっておられました。中国ごまは子供に大人気でした。

かざぐるま製作では雨でブースの中が狭く、思うようにできなかったとは思いますが、完成すると皆さんが喜んで持って帰っていました。私も何個も作りましたので、

教えてやれるレベルになりました。

その日は最後まで雨はやむことはなかったのですが、暗くなるまでお手伝いいただきました会員の皆様、九博の職員の皆様に感謝申し上げます。



次の日曜日が快晴だったので、延期した方が良かったんじゃないかと思いますが、無事に終わることができました。



第3回 九州ご当地博物館探訪



広報委員 藤村 信一

洗練された博物館ボランティア活動のお手本の今後の課題は・・・



伊都国歴史博物館に入る広報部員

「伊都国歴史博物館」は昭和62年7月「伊都国歴史資料館」として開館した後平成16年10月、新たに前原市立の博物館として新館が建てられ、2010年に市町村合併により糸島市立の博物館となりました。建物はその新館と旧館からなり平原遺跡の出土品を中心に展示されています。そして此处こそ、邪馬台国論争のカギを握る「魏志倭人伝」の舞台だと知って胸が騒ぎました。

後漢が184年の「黄巾の乱」以降衰退すると、それまで緩やかな奴国や伊都国を盟主とした倭国連合は、新たな国の枠組み作りとその盟主の覇権をめぐる争いの時代に入ったようです。

「倭国乱れ、相攻伐すること歴年、すなわち共に一女子を立てて王となす、名づけて卑弥呼という。」という魏志倭人伝の記述こそ邪馬台国政権の誕生の瞬間であり、その後の7世紀後半の律令国家成立の端緒となったのでした。ここで俄然平原遺跡が注目をあびたのはここから出土した銅鏡からでした。漢や三国時代の中国では銅鏡は権威を象徴するものでした。



平原遺跡出土
「国宝・内行花文鏡」

三種の神器の一つとされる八咫の鏡（やたのかがみ）は一般的な銅鏡が直径22cm位にたいして円周がそのおよそ八倍、直径46cm位だろうと言われていましたが、それとほぼ同じ大きさの国内最大の銅鏡が平原遺跡から出ています。ボランティアの皆さんの解説を聞いていると、自然に卑弥呼の世界に引き込まれ、ドキドキしてきました。ここでもまた、ボランティアの皆さんのお話がなければ、この博物館の展示物が生きたものにならない事をひしひしと感じました。

そしてこれら九州に点在する博物館達が結びつく事によって、謎に富んだ古代の姿が少しずつ私達の前に姿を現してくれる様な気がしてなりません。

さて、午後からは、美味しいお弁当を食べながらの懇親会でした。素晴らしい資料を用意して下さい、活動の熱心さと活発さに考えさせられる事も多い懇親会でした。

「伊都国歴史博物館ボランティアの会」は現在52名、年会費2000円で年の活動費は約10万円です。その中で通常の展示ガイドの他に、遺跡の清



ボランティアさんたちとの懇親会

掃や保護活動をする文化財フィールドワーク。勉強会や講座を開いたり、子供のためのワークショップを行うイベントグループの活動。一般の方も参加できる自主講演会の開催バス研修旅行、それから私達の「アクト」にあたる会報「風のたより」を年4回発行されています。鋭い質問も数々あり、先輩ボランティアの方々の意識の高さに圧倒されました。その中で、やはり此处でも会員拡大や運営費の問題。自主性を保ちながらも博物館と協働できる活動の模索など、私達が考えている悩みと同じ問題を抱えていらっしゃる事も解り、共に意見交換をしながら進化して行こうというお話に、文化で人々が繋がる力を本物にしていかなければと深く心に思いました。本当にありがとうございました。

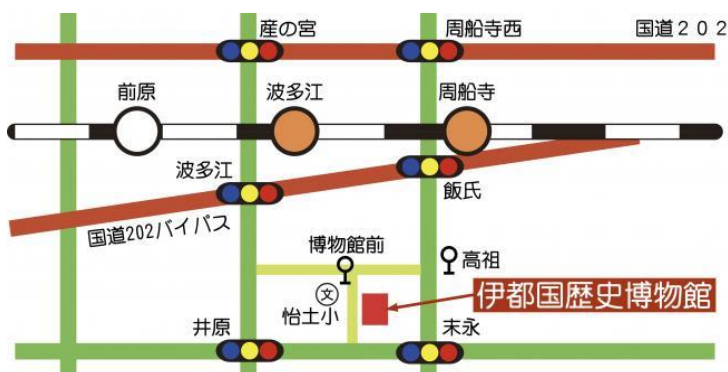


広報委員会のメンバーと
伊都国歴史博物館のボランティアさん



<アクセスマップと交通>

糸島よいとこ
一度はおいで!
歴史が
いっぱい
詰まってる!



◎マイカーをご利用の場合

【福岡市方面から】九州自動車道福岡インターまたは太宰府インターから福岡都市高速道路を經由し、西九州自動車道今宿インターをおりて、国道202号線バイパス飯氏交差点を左折、約8分直進

【唐津方面から】国道202号線バイパス波多江交差点を右折、約8分直進

◎JR 筑肥線およびタクシーをご利用の場合 周船寺駅から博物館まで 1,600円前後
波多江駅から博物館まで 1,300円前後

◎JR 筑肥線およびバスをご利用の場合 JR 筑肥線波多江駅西より昭和バス瑞梅寺線井原山入口行き、伊都国歴史博物館前バス亭下車。(片道260円)
または JR 筑肥線周船寺駅より昭和バス川原線川原行き高祖バス停から徒歩 10分。
※ご注意! 「波多江駅」バス停には停車しません。「波多江駅西」からご乗車ください

※バスは本数が少ないため(1日に3本程度)時間をご確認ください。

糸島市立伊都国歴史博物館 福岡県糸島市井原916番地
☎ 092-322-7083 (ボランティア室)

開館時間 9時00分~17時00分(入館は16時30分まで。)

休館日 月曜日(月曜が祝日の場合はその翌日)

入場料 一般210円 高校生100円 小中学生、65歳以上無料

国史跡吉武高木遺跡「やよいの風公園」

伊都国歴史博物館ボランティア
福岡西区ボランティア平群倶楽部
西久保 秀憲



やよいの風公園 予想図

今年 10 月で発見から 29 年、国の史跡となり出土物は重要文化財の指定を受け 20 年経った「吉武高木遺跡」の保存、歴史公園化整備工事が昨年からは始まり、こ

の度やっと第 1 期整備の「芝生公園」が完成しました。

ここは、福岡市西側の早良平野の西側部分に位置し、飯盛山の扇状地一帯と言えます。1200 基を超える甕棺墓・木棺墓が 10 ケ所以上に分かれ、旧石器時代から平安時代まで続く複合の墓地遺跡なのです。その中心的な墓で、特に早良王国の存在を印象付けたのが吉武高木遺跡です。

整備工事は再来年の 27 年度末の第 3 期工事までかかりますが、全体の名称も「やよいの風公園」と決定し、芝生公園はこの秋からオープンしました。イベント等の活用が待たれております。

吉武高木遺跡は、今から 2200 年ほど前の弥生時代中期初め頃の遺跡で、豊富な副葬品がまとまって出土したこと、特に 3 号木棺墓からは青銅製の鏡・武器、ヒスイ製の勾玉、管玉が出土したため、弥生最古の王墓・「早良王国？」と全国的に知られることとなりました。最大の注目は、床面積 120 m²の総テラス付き大型掘立て柱建物が確認されており、政治や祭祀を行った場所ではと推定されています。



吉武高木遺跡のシンボル



吉武高木遺跡

このように吉武高木遺跡は、「クニ」の起こりを感じさせ、弥生時代の社会の成立と展開を知る上でとても重要な遺跡であると言えます。



特別展



の見どころ

10月12日(土)～12月8日(日)

御三家筆頭の格式と美～大名文化の頂点 尾張徳川家の名宝～

九州国立博物館展示課主任研究員 酒井芳司

尾張徳川家は、徳川家康の9男・義直よしなお（1600-50）を初代とする御三家筆頭の名門大名で、江戸時代を通じて徳川将軍家に次ぐ家格を誇っていました。同家には、徳川初代将軍家康の遺品を頂点として、太刀・甲冑・鉄砲などの武具類、茶の湯・香・能などの道具類といった格調高い大名道具が数多く伝来しました。明治時代以降、旧大名家の多くが伝来の品々を売り立てる風潮のなかにあつて、第19代の義親よしちか氏が昭和6年（1931）に財団法人尾張徳川（現・公益財団法人徳川黎明会）を設立し、伝来品の保存と公開を図りました。

天下人が愛した名品の数々～足利将軍家、信長、秀吉、そして家康～

尾張徳川家初代の義直は、家康の死去に際して、遺品を兄弟間で分割相続しました。「駿府すんぶ御分物おわけもの」とよばれる家康の遺品のなかには、室町時代の足利将軍家に由来する「東山御物ひがしやまごもつ」をはじめとして、織田信長や豊臣秀吉の遺愛品、そして家康の形見の品が数多く含まれています。天下人としての正統性を象徴する名品が徳川将軍家だけでなく、尾張徳川家にも数多く伝来したという事実は、将軍家に準ずる御三家筆頭格としての同家の家格の高さを雄弁に物語ります。天下人たちが愛した名品の数々と一斉に対面することができます。

美の競演、二つの「源氏物語」～特別公開 国宝「源氏物語絵巻」、国宝「初音の調度」～

平安の美を代表する国宝「源氏物語絵巻」は、12世紀前半に成立した日本最古の物語絵巻です。今もなお親しまれている長編小説「源氏物語」を研ぎ澄まされた絵画表現でビジュアル化した、日本美術史上の代表的作品です。本展覧会では、「竹河（二）」と「横笛」を、それぞれ2週間限定で特別公開いたします。

江戸の美を代表する国宝「初音の調度」は、寛永16年（1639）、徳川3代将軍家光の長女千代姫が徳川義直の嫡男光友（尾張家2代）に嫁いだ際の豪華な婚礼調度です。日本の蒔絵作品の最高傑作で、「源氏物語」の「初音」帖の和歌の歌意を意匠とし、その文字を絵柄に埋めこむという趣向も凝らしています。いずれも不朽の名作「源氏物語」を題材とした逸品で

す。平安の美と江戸の美の競演をお楽しみいただけます。

本展では現在も徳川美術館で守り継がれている数多くの名品から選りすぐりの約230点を展示します。江戸時代における最高水準の大名文化を、ぜひ感じとって下さい。



〔国宝 源氏物語絵巻 竹河(二) 平安時代〕
〔12世紀 [展示期間：11/12-11/24]〕

トピック展示は ミニ特別展

今秋、九博の文化交流展示室では、2分野で大変貴重なトピック展示が行われます。
ぜひご覧になってください。

文化交流展示室 秋のトピック展

茶の湯を楽しむ VI 特別編 煎茶の世界



期間 平成 25 年 10 月 1 日 (火) ~ 12 月 1 日 (日)
場所 文化交流展示室 関連第 11 室

煎茶は、江戸時代に黄檗宗と共に到来し黄檗僧によって広められました。なかでも肥前(佐賀県)の高遊外売茶翁(1675~1763)は、京の街中で「清風」の旗を立てて煎茶を売り歩きながら広めたということです。当時の文化人などに大きな影響を与えたそうです。本年は売茶翁没後 250 年、九州ゆかりの作品も含めて煎茶の風雅な世界が紹介されています。

文化交流展示室 トピック展

山の神々—九州の霊峰と神祇信仰—



場所 文化交流展示室 関連第 9 室

平成 25 年 (2013 年) が竈門神社の始まりから 1,350 年目に当たることを記念し、アジアと日本列島の山岳信仰の接点に位置する九州各地の信仰遺品が紹介されています。

特別展と共々ぜひご覧になってください。



《九博豆知識》 九州国立博物館を支える重要設備 = 屋根散水装置

博物館の屋根は「チタン製(0.4 mm)」で、断熱効果が高い材料を使用していますが、それでも、屋根裏が高温になりすぎると、屋根上に取り付けられた散水ノズルから雑用水が噴水され屋根の温度を下げるように、屋根散水装置が設置されています。

会員拡大委員会

委員長 吉村美和

本年度、会員拡大委員会を担当させていただきます吉村と申します。

愛する会も早いもので7年目となりました。当初は少ない人数で九博の永続的な発展を通じて、周辺地域の更なる活性化につながるよう、活動を行なって参りました。

会員さんの口コミや活動が地域に少しずつ浸透して、現在は法人・個人会員合わせて300名を超える団体になりました。

しかしながら、会員の高齢化や経済の低迷により、会員数の減少が続いており、このままでは折角はじめた市民活動が衰退しかねません。

今までの活動やこれからの目標を視野に入れると会員の増強に力を入れて行かなくてはならないと考えております。ご入会情報がございましたら飛んでまいりますので

(笑) ご連絡をよろしくお願いいたします。

<愛する会会費 (一年間)>

個人会員 3,000円/名

法人会員 10,000円/口

<振込先>

福岡銀行 二日市支店 普通預金 口座番号 1858192

名義人 九州国立博物館を愛する会 理事長 前田 和美

<連絡先>

(092) 924-8338 (つくし青年会議所 内)

会員拡大委員会 委員長 吉村美和

*入会申込書は、愛する会のホームページからダウンロード出来ます。

<http://aisurukai.net/>



円満相続で円満家庭を！

総務委員会 青山博秋



先日、九博でとあるイベントを開いた。個人的な話だが、50歳になったら相続学校・開校記念講座を開いたのだ。実は思いあって、講師に天満宮の味酒さんと相続アドバイザーをお呼びし二部構成で行なった。おかげで満員御礼。あらためて味酒氏とこの相続への関心の深さを知った。皆様にもお知らせしたかったが、「愛する会との関係が？」と理事会で後援申請は却下、案内を辞退させていただいた。

反省すべきは私の不徳の致すところ。しかしその様な経緯もあり有難くも今回のリレー随想に機会を頂いたと感謝している。

私は仕事で不動産売買にも携わるが、最近その売却理由が、相続による資産分割も多くなった。それがどうも円満でない雰囲気も多くなった。いわゆる‘争族’というもの。誤解が多いのであえて書くが、この争族という悲劇は意外に資産の有無に関係なく、むしろ資産家はもめない。分けるものが不動産しか無く、そこに相続の知識不足や無関心が祟り、結果として家族間や兄弟間に亀裂が入る。そんな光景を見てきた。だから少しでもこの様な事態を防ぐお手伝いできれば！そして私の持論、「円満相続が円満家庭を創り、円満家庭が愛と感謝を育む。この愛と感謝こそ、ふるさと承継に必須。これがあって始めて、ふるさとが単なる出身地や記憶から昇華できる。ふるさとを愛しみ守りたいと思える。」という思いがある。味酒氏の話と相続の話はまさにこの関係にあり、その会場に相応しいのは、ここ九博！と確信していた。その折の動画は下記アドレスに。ご興味あればご覧いただきたい。また機会理解が得られればご案内したいと思っています。最後に。誰もが必ず体験する相続。愛するものの為、くれぐれも無関心にならぬよう願っています。

<http://www.tokusuru-souzoku.com>



編集後記

読書の秋、人並みに歴史書なんぞ広げてみたものの、いつの間にか夢の世界へ政庁跡の緑の芝生に寝ころび、太宰府国際音楽祭に世界中から一流のアーティストが集まった野外コンサート・・・楽しいなあ、ところが一瞬にして現実の世界へ、いつかこんな日がこないかなあ。真の文化都市太宰府の誕生を夢見つつ

..... 松山 勝利

